

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林研究費

事業名 キノコ生産管理技術プロジェクト事業費 (R8分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

森林研究所 電話番号：0575-33-2585

E-mail : c25108@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 補正要求額

1,042 千円 (現計予算額：

0 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	1,042	399	0	0	0	0	0	0	643
決定額	1,042	399	0	0	0	0	0	0	643

2 要 求 内 容**(1) 要求の趣旨（現状と課題）**

シイタケの出荷後の変色は、市場からは、日持ちの良い、品質の高いシイタケを出荷してほしいと要望がある。生産地ではその要望に応えるため、生産技術の見直しや変色を防ぐための包装資材への変更等で対応しようとしているが、生産コストが増加することから、とりわけ小規模生産者にとっては対応が困難な状況にある。

また、出荷時には変色していないシイタケであっても、変色リスクが評価できない現状では、変色しやすいものが混在した状態で出荷されており、市場到着時に変色していることが判明することで、市場における生産地の評価を低下させている事例が見られる。このため、県内生産者の減少に歯止めをかけるためにも変色リスクを明らかにすることで収益を向上させることが喫緊の課題である。

(2) 事業内容

○継続研究課題 1 課題

- ・酸化酵素を用いたシイタケの変色リスク評価技術の開発(R 8)

変色リスク評価のために必要な酸化酵素関連データの取得解析を行う。この知見をもとに生産者が現場で活用できる変色予防につながる酸化反応を用いたシイタケの評価方法を開発する。

(3) 県負担・補助率の考え方

試験研究には試行錯誤が伴い、取り組んでも必ず成果が出るとは限らないなどリスクも大きいため、民間が自ら試験研究を実施することは困難である。よって、県が主体となつて試験研究に取り組む必要がある。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	201	補助職員報酬、労災保険料
費用弁償	0	
旅費	242	職員旅費（調査、打合せ、情報収集）
需用費	599	試験や調査のための消耗品購入
委託料	0	
合計	1,042	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第4期岐阜県森林づくり基本計画（R4～R8）
- ・岐阜県林政部研究推進方針に基づいた森林研究所推進計画（R4～R8）

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「第4期岐阜県森林づくり基本計画」及び「森林研究所推進計画」に沿って、①健全部で豊かな森林づくりの推進、②林業及び木材産業の振興、③人づくり及び仕組みづくりの推進を柱に、県民・産業界のニーズに応える研究開発を進める。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R2)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①製品・技術開発移転(累積)	—	6	8	10	10	60%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

（記入欄）

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	アミラーゼを用いたマイタケ栽培において、現地実証箇所を一件追加するとともに、菌床ブロックの環境改善（温度分布等）を図った。また、原木シイタケ栽培でもアミラーゼ増収効果の現地実証を行った。
令和5年度	アミラーゼを用いたマイタケ栽培において、現地実証箇所を一件追加するとともに、菌床ブロックの環境改善（温度分布等）を図った。また、原木シイタケ栽培でもアミラーゼ増収効果の現地実証を行った。
令和6年度	指標① 目標： 12 実績： 6 達成率： 50 % 令和7年度当初予算にて追加 指標① 目標： ____ 実績： ____ 達成率： ____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	キノコ生産業界に対して、収益性の向上に役立つ情報と技術を提供することで、県内のキノコ生産額の増大が図られ、地域経済の活性化に貢献するため、事業の必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3	3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない
(評価) 3	キノコの高温時の温度管理基準、低温時の発生促進技術は、県内すべてのキノコ生産者に役立つ成果である。研究内容や成果は、知事会見、研究成果発表会、県内製造業者などが集まる研修会で積極的に発信しており、生産現場での実証箇所も広がっている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
(評価) 2	2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている
(評価) 2	研究課題の計画書や進捗状況を定期的に確認しながら、軌道修正及び効率化を図っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

キノコ生産業界は、益々産地間の競争激化が予想されることから、さらに収益性の高い技術開発が必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
企業・団体からの相談・要望から得られたニーズに基づき、研究課題の方向性を修正していく必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	